



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル：ネタニヤフ首相が早期選挙を決断

12月2日夜、ネタニヤフ首相は記者会見を行い、ラピッド財政相とリブニ司法相を解任するとともに、早期選挙を行なうと発表した。ネタニヤフ首相は、更迭した閣僚が閣議決定に違反する行動をしたり、閣僚でありながら政府の政策を非難したため今の連立内閣では安定した政治ができないために解散を余儀なくされたと説明した。ネタニヤフ首相の決定を受けて、国会議長は3日午前中に各党党首と国会解散決議について協議を行い、午後から国会での審議にはいる予定である。選挙候補日は、2015年3月の火曜日（10、17、24日）と報道されている。党首が閣僚ポストを解任された後、イエーシュ・アティド出身の4閣僚が辞任した。中道政党が抜けた政権は、右派（リクード）と極右（イスラエルベイトヌ、「ユダヤの家」）で構成される選挙管理内閣になる。

2日に行なわれたテレビ局の世論調査では、右派、極右、宗教政党が国会120議席中の76～78議席を獲得する勢いである。

評価

ネタニヤフ首相が、早期選挙を決断した背景には、閣内の中道政党との確執もあったと見られるが、自分の政治的生き残りのためとの批判が多い。首相は、国会解散は自分が望んだことではないとしているが、イスラエルの主要メディアは、首相自身が望んだ解散であると論評している。イスラエルの政治家は、今後4カ月は選挙対策に忙殺されることになり、外交問題に対応することはさらに難しくなるかもしれない。しかし、外交面での動きは活発化しており、12月中には、パレスチナ自治政府の要請を受けたヨルダンが、西岸からのイスラエル軍撤退を求める決議案を安保理に提出する動きを見せている。12月2日には、仏国下院がパレスチナ国家を承認する動議を採択した。EU議会は、12月中旬に同様の決議を採択する予定と報道されている。

有権者全体が右傾化しつつあることもあり、右派・極右政党の候補者たちは、自分たちが真の右派であることを示すために、いっそう強硬な安全保障政策を打ち出す可能性がある。候補者たちが得票目当てのためにパレスチナのテロやイランの核の脅威を過度に強調するようになれば、現実から乖離した脅威論になることが懸念される。

（中島主席研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799